

西山地区

コミュニティ協議会だより

【(西風) 令和6年度10月号】

発行：西山地区コミュニティ協議会

会長 中村史傳

令和6年10月11日発行

薩摩川内市下甕町瀬々野浦 1194

TEL 09969-5-0122

FAX 09969-5-0355

10月の行事

- 3日 主事連絡会（鹿島）10：30
- 4日 甕アートスタート ～11月4日
- 6日 かのこ幼稚園運動会
- 〃 ゴッタン演奏会 コミセン
- 7日 第13回事務局会議
- 9日 竜宮文化フェスタ実行委員会 手打
- 15日 地区内清掃日、サロン
- 21日 第14回事務局会議
- 19日 下甕地区二十歳を祝う会実行委員会
- 27日 市長・市議・衆議院選挙

令和6年度敬老会盛大に開催

例年のごとく第3日曜日、地域内清掃日の作業のあと11時からの開始である。今年の対象者は46人。出席者は34人。サポートは8名。飛び入り芸能人（長浜）2名、総勢44名の参加であった。

歌あり踊りありの楽しい行事になった。新入会員は中村守克さん（的場）山下明子さん（新町）の2名。末永く宜しくお願ひします。



令和6年度旧西山小学校校庭草刈②

運動会前に小学校の草刈りをということ、当初23日に設定していたが、前日の雨で校庭がぬかるんでおり、この日は体育館周り、学校周辺、駐車場スペースの確保という作業になった。翌24日午後から校庭の草刈りをした。二日続きはさすがに応えたなあ。



運動会参加のため帰省中の方々も草刈りに参加されました。

瀬々野浦へ

地域おこし集団がやってきた？

去る9月22日、地区コミに鹿児島で地域おこしの交流会に参加した人たちの一部がやってきてこの地域の地域おこしについて集会を始めた。中には芸術家もいて、10月4日～11月4日までkoshikiArt2024という催しが島の廃校になった小学校や廃屋、倉庫などで展示されている



なかに出品している人も含まれていた。関連性はないのかもしれないが、時期が重なったので気になる。当地では西山小学校（芸術家集団）と、元中村藤信さん宅で（手打の原崎岩雄さんの写真）が期間内展示されていていつでも見に行ける。島

外からも見学者は訪れているようです。

シリーズ19 故郷を深く浅く探るー中村史傳

十五夜綱引きとソーダンズー

今年の旧暦八月十五夜（ジユウゴヤ・ズーゴヤ）は九月十七日であった。旧暦では八月は秋の真ん中である。だから「中（仲）秋」ということである。

この仲秋の十五夜には満月の月明かりの中で綱引きをするのが南九州一帯の習俗である。この綱引きの綱には、ワラやカヤやカンネンカズラ（葛・くず）で作られた。

それぞれの地域によって、この材料を混ぜ合わせたり、この一つを使って練りあわせて綱が作られたようだ。わがシンヌウラはカンネンカズラのみで作られた。

下甕の集落の多くもカンネンカズラで作り、上甕でも里のカズラ立て（昔は綱引きをもしていた。）瀬上の綱もカンネンカズラで作る。

本土地域でもカンネンカズラを使うところも多いようだ。そしてこのカズラを山からとってくるのが少年の仕事であるところも多い。

十五夜と少年の関りと言えば、シンヌウラではソーダンズーだ。知覧（南九州市）でも十五夜の晩には「ソーラーヨイ」という少年たちがかわることが新聞で紹介された。

ソーダンズー十五夜はシンヌウラだけと思っていたが、県下各地に十五夜綱と少年のかかわりがあることを聞き、民俗風習の共通性を実感する。

今や「ソーダンズー」は死語となり、この実態を語れるものは少なくなった。

ソーダンズーは私たち昭和二十四・五年生まれの学年が中学一年の「ジゴアレー（ジゴ洗い）」のままで翌年からは行われなくなった。（昭和三十七年九月十三日がズーゴヤの晩だった）。

ジゴアレーの名のいわれは、新入りは波打ちぎわ近くにすわらされて、波のある日はすわっている尻（ジゴ）まで波が打ち寄せ、波しぶきがかかって寒かった。

八朔と呼ばれる旧八月一日の新月の時から満月となる十五夜までの約二週間程が活動期間であった。一回しか経験していないので詳しい活動内容は覚えていない。

発言する時「かしや許せ」という許可をもらって発言すること。カズラ集め、綱練りの段取り、綱引きに村の者全員を出すことなどが吟味合われた気がする。何より先輩の機嫌一つで夜の海を泳がされたり、墓に行かされたり相撲の弱かった私は相撲を取らされたりが嫌だった。

私はジゴアレーで終わったので詳しくは知らない。私より先輩諸氏は非教えてもらいたい。